



2024年 7月号

全国福祉保育労働組合東海地方本部
〒456-0006
名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館405
TEL 052-881-2971/FAX 052-881-2998
e-mail fukuhotk@gmail.com
発行責任者/塚本洋平

1面…24春闘報告・風の音/2-3面…報告etc
4面…なかったことにさせない番外編



fukuhotkで検索

地本カルトクイズ

もっと東海地本のことを知ってもらおうと出来たコーナー！

【第52回の正解と当選者】

1問：東日本大震災の後に始まった取り組みの名称は「明日を灯すキャンドルプロジェクト」（通称「あすキャン」）

2問：今年の組合学校は何月何日？「7月6日」

3問：福保労東海地本で昨年結成された子育てサークルは「チームカンガルー」

当選者
海老原和さん（きたちくさ分会）、野中優姫さん（きたちくさ分会）、清水舞さん（ぼけっと分会）

～応募者の感想を紹介します～

職場の中だけでなく、一歩離れたところでも、自分の仕事を伝え、自分の思いを語る。その繰り返しが、きっと私の仕事も生活も強く支えて力につながると信じています。新しい仲間のみなさん、よろしくお祈りします。
（ぼけっと分会 清水舞さん）

【第53回目カルトクイズ】

第1問：5・27中央行動は全国から何人の参加だった？
第2問：平和行進の報告で、私たちができるとして挙げられていることは？
第3問：LABOR NOTES（レイバーノーツ）とはどんな組織？

応募方法：下記QRコードのGoogleフォームか、FAX、Email（一面参照）にて、回答と今月号を読んだ感想を記入してご応募ください。

正解・不正解を問わず、応募者のメッセージを紙面に掲載し紹介します。正解者のうち抽選で3名に1,000円分の図書カードを進呈します！

応募締め切り：8月末日まで。
当選者は、9月の地本大会（9/8）で発表。
カルトクイズ応募用GoogleフォームQRコード→



身近な要求から出発！西部くさのみ分会

「春闘ってなに？」
「要求ってなんで？」
「なに？」
「要求ってなんで？」
「なに？」

2024年の西部くさのみ分会はそんな素朴な疑問が出发点でした。具体的な話を深める中で出てきた、「仕事」ライバートどちらも両立しながら働き続けたい」という切なる願いでした。

そうして西部くさのみ分会として初の独自要求を提出し、法人と交渉の場をもつまでに至ったのは、とても大きな出来事となりました。少人数の分会ですが、一致団結すれば、一歩を踏み出せるのだと、確信できた春闘だったと思います。

（報告 菊田）

まだまだ!! みんなでよくなる 24春闘



すべての分会で独自要求を提出しよう!

24春闘は異常な物価高の中でしたが、「子どもたちにもう1人保育士を！」の運動により配置基準の「改善」や、介護・障害分野では、報酬改定を「プラス改定」にしてきたことは、不十分ながらも、みんなの声をあげてきた成果です。そして、その大元には「こんな実践がしたい!」「こんな働き方がしたい!」「みんなで働き続けたい」という職場での要求闘争があり、制度での改善が必要なんだ!と大きな声で迫れたからこそです。

東海地本では24春闘は7月職代時点で30分会が要求書の提出を行い、半数の分会が「みんなでよくなるうー」と前進を求めて闘っています。のびく分会は学童保育所の賃金が保育とは違うことから、船方学童の基本給の引き上げを求めて要求書を提出し、「1万円の「基本給加算」を新設させる

24春闘最終版も、みんなが成果をよるこびあいましよつ。

福保労東海地本 第39回定期大会
2024/9/8 (日)
10~16:30
@労働会館 東館ホール

能登支援ボランティアに参加して

「なかったことにさせない」キャンペーン展開中!

【今後の重要日程】
※自治体交渉日程は2面参照

7/21 (日) 10~18時
愛労連大会@ウィルあいち

7/28 (日) 11~17時
福保労全国「仲間を増やす道場」@全労連会館 (東京)

8/20 (月) 10~11時
名古屋市人事委員会申入れ @名古屋市役所東庁舎1階

8/31 (土) 13時~9/1 (日) 15時
総社研 社研集会 in 関東

9/1 (日) 岐阜県労連定期大会
9/8 (日) 福祉保育東海地本定期大会



未だに罹災証明が出ず…
私は4月6、7日に第一次能登支援ボランティアに参加しました。被災者の組合員さんのお宅で、倒壊した建物のがれきの片づけを行いました。農家のお宅で、倒壊した納屋の下敷きになった米袋を取り出したいのが希望でしたが、さらなる倒壊の危険があり、人力では一袋を引く張り出すのがやっとでした。

2月に罹災証明書の発行を申請してもまだ出ていない。調査

1月1日に起きた能登半島震災から半年経過しましたが、未だに「復旧」すら見通せない状況が続いています。全労連の震災ボランティアの呼びかけもあり、能登支援に行った愛知県医労連から寄稿してもらいました。

未だに罹災証明が出ず…
をしてもらい全壊・半壊判定がないと公費解体ができない。調査の人手が足りないようだ」と聞きました。輪島で地震後に起きた火災の跡や、7階建てのビルが横倒しになり車道にはみ出た危険な状態でも、放置されていました。

公的責任での復旧・復興を
4月20、21日の第二次ボランティアには看護師の茅野さんが参加しました。1軒目のお宅では、「壁は剥がれて2階の階段も落ちてきているのに、これで半壊。(片付けのために)昨日来たけど、ここ以外はみんな真つ暗。電気はきただけ水が使えないからみんな避難所か仮設に入ってる。」と話してくれました。2軒目のお宅

茅野さんは、「被災地の方の話聞いて、心理的支援が必要な時期なのではないかと感じました。棚の中に壊れていない九谷焼の食器がたくさんあってあり、思いも大切に祀ってあったものも手放さないといいないのはつらいことだと思いました。皆さん大変な中でもとても優しく、余計に復旧も復興も進んでいないことがつらかったです。」と感想を寄せてくれました。
(愛知県医労連・矢野彩子)

【編集後記】
つい先日、障害児分野の自治体交渉があり、現地に参加してきました。短い時間ではありましたが、自分たちの思いが直接伝えられるのはもちろん、回答からだけでは見えない部分や、担当の方の思いも聞くことができ、やはり実際にやりとりをしたつ考え合える場は貴重だし、大事にしたいと感じました。

今回の1・2面にも要求闘争が

風光誌
つづきやきー

ことこの日、プール開き、七夕と次々に迫る行事を思うと前半期らしい慌ただしくも新鮮な雰囲気を感じる今日この頃です。

さて、私が執行委員になりあと数ヶ月で1年が経とうとしています。今だに分らない事の方が多く、たくさんの方に助けて頂きながら出来ることを少しずつ増やしてきました。執行委員会や担当している会議では、病気や仕事都合で参加出来ない日も多く、Zoomを最大限活用してなんとか出席し、いろんなことを話し合い、その中で新しいことも知っていました。そのおかげでいくつかの大会で少しかけ発言させて頂く機会もあり、この経験は今後自分の活動の大きな糧になると感じています。

組合に参加して1番好きなことは、分会で仲間と自由に各々のことを話し合う時間です。個人的には、この瞬間が組合に参加して良かったと感じています。まだまだみんなについていって、なんとかそれっぽく見せながらやっている状態ですが、いいなあと思ったことをドンドン取り入れながら、コツコツ頑張ってるプライベートも仕事も組合も充実させていきたいなあと思います。
(三年目)

5・27 中央行動 現場実態を伝え、 制度改善へ!



保育分野 報告

行政の縦割りの弊害がある中で、配置基準と処遇改善について「すり合わせて進めてる」と言われただけで「当たり前でしょ!」って言いだしたんです。子どもに関する政策を包括的に進めるために、こども家庭庁ができたんじゃないのかと。障害児の配置とか看護師のこととか、機械的に答えてるのも。そうしないとボロが出るからでしょう。

子ども誰でも通園制度でも、テストケースと、今回の試行とでさやってるのが違うところがあるのには、検証すらきちんとせずに、本格実施に向けて動くなんて。ちなみに三重県では松阪市がするみたいですが、ホームページを見て一時預かりの充実のほうが先だろうって思います。確かに家庭にいる親子にとつて、抛り所となる支援制度は必要だと思えますが、示されてるものを見る限り、子ども誰でも通園制度がそうなると思えないですよ。

(ぐみの木分会田中)

障害分野 報告

午前の情勢学習で特に驚いたのが、厚労省のいい加減さです。福保労がこれまでずっと要求している職員配置基準の引き上げに対して厚労省は「一律の引き上げは経営を圧迫するため慎重な検討が必要と回答していません。」しかしこの回答の根拠となる数字を厚労省は持ち合わせていないことが明らかになりました。

午後は障害分野の交渉に参加しました。処遇改善による賃上げも政府が謳っている増額率には及ばず全く足りません。また直接処遇職員が対象となり、私のような相談支援専門員は対象外であることは変わっていません。今回私は相談支援でも直接処遇的な支援をしている実態を伝えました。

他には生活介護での時間単位の報酬区分は多くの事業所で赤字が見込まれ、参加者から不安な思いが出されました。しかし担当は「3年後に向けて検討します」と回答。「3年なんて待てない!」と参加者からの怒りの声が出たことは言うまでもありません。

全てでは基本報酬の増額に行きつきますが、厚労省が根拠として出している収支差率は労働者の低賃金と長時間労働が前提となっています。福祉労働者の大変な実態を報酬に反映させるためには労働実態調査を行っていくことが必要だと思えます。(さくらんぼの会濱田)

引き続き声を届けよう

当局からの、的を射ない回答には参加者から怒りの声が上がりましたが、保育種別の交渉では「みなさんに納得してもらえない回答が準備できたか」と言えはそうではない」という発言があるなど、政策が不十分であることを自覚した回答をせざるを得ないところまでにさせてきたのは、福保労の交渉でこれまで積み上げてきた、私たち現場の労働者の力です。

引き続き、現場の声を政策に反映させるためにも、東海地本から参加者を送り出していきましょう。

7月から自治体交渉もスタート! みんなの現場実態を届けよう!

- 保育
名古屋市・2024年8月1日(木)
17:30~19:00@東館ホール
愛知県・2024年8月20日(火)
15:00~17:00@調整中
鈴鹿市・2024年8月8日(木)
18:00~19:00@鈴鹿市役所
- 障害
名古屋市(障害児)・2024年7月8日(月)
19:00~20:00@いーぶる名古屋
名古屋市(障害者)・2024年7月29日(月)
19:00~21:00@市役所西庁舎12階C
愛知県・・・調整中
- 児童養護・・・調整中

私たちには 変える力がある

LABOR NOTES 2024 in CHICAGO

《報告 書記長 薄美穂子》



一人ひとりに 変える力がある

組合活動はトップダウンで、指示されてやるものではなく、一人ひとりに「要求」があり、それを実現するためのもの。そして一人ひとりに「変える力」があるのだと、感じられる活動にしていきたいと思えました。そして、女性や子連れの参加者にとっても多かった!日本もこんなふう当事者が参加できる労働組合運動にしていきたいです。

保護者・市民との 共同が力に!

大会後はシカゴの教員組合と懇談。アメリカは公務員もストができるのですが、そのために市民や保護者の理解を得ること、「共同」が大事だと話されていました。組合員である教員こそが保護者と良好な関係にあり、教員自身が地域社会に働きかけることが最善だという立場に立っているという話にはとても共感して、福祉保育労もそれを大切にしたい。労働組合が自分達の処遇改善だけでなく、市民や社会全体が良くなる活動に取り組むのは必然!と確信を持ちました。



“今” 平行行進 に参加すること

けやきの木分会 榎部

今回実行委員として会議から参加させてもらいました。会議の中で「被爆者と一緒に行けることがだんだん少なくなってきた」という言葉が印象的でした。戦争を経験した人と一緒に歩ける機会は今しかなく、私たちの世代しかできないことに、はっとしました。そして“今” 平行行進に参加することに、とても意味のある事だと感じました。

当日は色々な団体が集まってその迫力に圧倒されました。通し行進者の大村さんともお会いできてよかったです。歩いてると「頑張ってるね!」という人々に声をかけていただきました。核兵器をなくし、平和への願いを持っていて仲間がたくさんいるのだなと嬉しく感じました。中村区間でしか歩けませんでした。平和を願って職員みんなで折った折り鶴が広島に届いているといいなと思います。

ウクライナの戦争をニュースで見た時に、決して昔話ではないなと感じました。大好きな人と笑って、おいしいものをたくさん食べる幸せがなくなってしまうのは恐怖でしかありません。そんな現代を生きている私たちができることは平和への願いを発信し続けること。その一つが平行行進だと感じました。この取り組みを戦争を経験していない私たちも大切に繋いでいきたいと思います。

労働組合に 運動を取り戻す

4月19日、4月21日、アメリカのシカゴで行われた、レイバーノーツ大会に参加してきました。レイバーノーツとは、「労働組合に運動を取り戻す」ことを掲げて活動する組織で、この大会には世界中から4000人以上の労働者が集まりました。なぜ「取り戻す」なのかというと、労働組合が労働者との「すり合わせ」の中で労働条件を決めていくや、役員が「やってあげる」活動の中で、アメリカの労働運動が衰退してきた過程があったからです。

この職場で働き続けたい だから「闘う」

大会中はたくさんの方のワークショップや全体会で、アメリカの様々な労働組合の現場で働く労働者と活動交流をしました。中にはアマゾンやスタバで働く労働者もいました。スタバで働く非正規の女性、会社から求められ

